

2025 年 9 月 1 日チケット販売開始

「象牙を使わない箏コンサート～箏曲の地平線を望むタベ」のご案内

【日時】2025 年 10 月 31 日(金) 18:30-19:45

【会場】東京ウィメンズプラザ ホール(東京都渋谷区神宮前5丁目53-6)

渋谷駅 宮益坂口から徒歩12分／地下鉄 表参道駅 B2出口から徒歩7分

【チケット】一人 1,500 円 160席(親子室チケットは小学生以下無料)

【申込】チケット販売サイト Peatix からお申し込みください

<https://ivoryfreeconcert2025.peatix.com>



主催 認定 NPO 法人野生生物保全論研究会 (JWCS)

共催 認定 NPO 法人トラ・ゾウ保護基金／Sera Creations

後援 公益社団法人日本動物園水族館協会／国際自然保護連合 (IUCN) 日本委員会

認定 NPO 法人アフリカゾウの涙

【開催趣旨】

かつてはアフリカ大陸に広く生息していたゾウは、象牙の需要により 1964 年から 2016 年の間にサバンナゾウは 70%、マルミミゾウは 90%も減少しました。ゾウを絶滅から守るため、ワシントン条約では象牙国内市場閉鎖の勧告が決議されました。

世界のおもな象牙消費国では、国内での象牙の売買を狭い例外を除き禁止しています。この象牙国内市場閉鎖は象牙の価格を下落させ、ゾウの密猟や違法な象牙の押収の減少に寄与したと国連機関の報告書は述べています。そして日本がかかわる国際違法取引があったことが明らかになり、日本の国内市場閉鎖が求められています。

邦楽器には象牙が使われていますが、文部科学省は代替品の開発に補助金を支出しており、象牙をめぐる状況は大きく変わりました。

今回のコンサートは象牙代替品での演奏の音色を体験し、ゾウの保護と伝統芸術の両立を考えます。

【プログラム】

開場 17:00

イベント開始までホールでは、野生生物保全論研究会が発信しているポッドキャストを使った音声番組「生きもの地球ツアー」をお楽しみいただけます。ホワイエでは野生生物保全論研究会と共催団体のトラ・ゾウ保護基金の活動紹介、また象牙代替素材を使用した和楽器アイテムの展示を行います。

18:30 開会あいさつ

18:35 講演

19:05 演奏

19:40 閉会あいさつ

19:45 終了

<講演>

「ゾウの密猟と日本の象牙市場」 認定 NPO 法人トラ・ゾウ保基金 坂元雅行

「アフリカのゾウを守る象牙代替への挑戦～再生可能資源から作る新素材 nanoforest～」

中越パルプ工業株式会社開発部 橋場洋美

<演奏曲>

古典箏曲・現代箏曲

セネガル伝統曲 箏とジェンベのコラボレーション

☆ 箏の演奏には、象牙代替として開発された竹由来の新素材箏爪や植物原料配合の樹脂製の箏柱を使用

<演奏者>

マクイーン時田深山 (マクイーン ときた みやま)

即興、現代音楽、オリジナル曲を中心に活動。オーストラリア出身。伝統に基づきながら現代人が面白い、聴きたいと思える独自の音楽を目指す。ソロに加え様々な編成で活動し、自然体で豊かな表現が定評を得ている。東京ジャズフェスティバル、ドイツの Moers Festival 等に出演し、バンクーバー交響楽団、Australian Art Orchestra、日本フィルハーモニー交響楽団等と共演。2019 年に Asian Cultural Council のグランティとして NY に滞在し、現代音楽、実験音楽、即興音楽に携わる。2020 年に欧、米、豪、日本の作曲家の作品を収録したソロアルバムをリリース。小田村さつき、沢井一恵に師事。

TRAORE SEYDY (トラオレ セイデイ)

セネガル出身の伝統音楽家。幼少期からグリオ（音楽一族）の師の下でサバル太鼓、ジャンベ、ダンスなど西アフリカ伝統音楽を習得し、国内外で演奏活動を重ねる。2017 年の来日以降、関西を拠点にコンサートや音楽教室を精力的に開催。西アフリカ伝統音楽の深い魅力を伝えながら、ジャズや和太鼓との革新的なコラボレーションにも挑戦し、音楽の垣根を超えた表現活動を展開。ジャンベ、サバル、ダンス、バラフォン、タマ（トーキングドラム）、シンブ（虎やライオンを模した伝統的なパフォーマンス）など、豊富な技術で聴衆を魅了する。

【お問合せ】 認定 NPO 法人 野生生物保全論研究会 (JWCS)

Tel: 070-4342-5697 Email: jwcsevent@gmail.com